



あべともこニュース

医療と地域と暮らしを支えるために厚労委員会で質問！

◆コロナ労災、確実な請求・認定を！

緊急事態宣言下の「休業」「自粛」の中でも、社会生活を日々支えてくれた医療者やスーパージョブの従業員、バス・タクシーの運転手など、いわゆるエッセンシャルワーカーと言われる人たちに、業務上の感染が広がっています。全国の医療機関で起きた集団感染は99か所にも上り、医療従事者だけでも千人以上もの感染者が。(6/8毎日新聞) 国の労災保険制度は業務や通勤途上のけがや病気に対して、治療費の支給と休業時の補償を目的に作られ、事業主にも申請の助力義務を課していますが、現在の申請数は全体で420件、認定はわずか39件のみ。7月1日の厚労委員会でもっと申請を喚起し、積極的に認定すべきと追及。大臣はコロナ感染が労災の対象になることを改めて周知し、認定事例を具体的に公表するとはっきり答弁しました。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県 12 区 (藤沢市・寒川町) 当選 7 回、東京大学医学部卒業、小児科医、あべともこどもクリニック (湘南台) 理事長 現在、厚労委員会・原子力問題調査特別委員会筆頭理事



https://twitter.com/abe_tomoko



<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ 検索

あべともこと共に歩む会後援会入会のご案内及びボランティアスタッフ募集中!



◆医療提供体制を支えることこそ

医療・介護・福祉現場等で働く人たちをしっかりと支えるとともに、新型コロナウイルス感染症発生以降、患者さんを受け入れた病院はもろろんのこと、それ以外の病院や診療所も、患者さんの受診控えや手術の先送り、健康診断中止などで大幅な減収に陥り、存続が危ぶまれる状況になっています。病院や診療所がなくなれば、当然コロナ第2波、第3波にも太刀打ちできません。

そもそも検査と医療体制の充実は新型コロナウイルス対策の基本。厚生労働省はこれまで保健所を半減させ、感染症病床を減らし、さらには公的公立病院を統廃合する計画ばかり立ててきましたが、医療崩壊を防ぐことこそが役割のはず。自治体や都道府県が要望をしっかりと聞いて、医療機関の減収(赤字)を補てんすべきです。

今後の事業継続に関して、新型コロナウイルス感染症の影響、お聞かせ頂ければ幸いです。
[質問1] 影響がある [] 影響がない []
[質問2] 必要な対策(該当するもの)
[] 特種化給付金増額と要件緩和
[] 家賃補助の更なる充実 [] 銀行等の返済猶予
[] 税や社会保険料支払猶予 [] 消費税の引下げ
[] 雇用調整助成金の支給迅速化
[] 新型コロナウイルス対応休業支援金
[] 事業継続記入下さい
[質問3] 貴社の業種についてご記入下さい。
(使用) (会社名) (店舗名) (代表者名) 姓
ご記入者氏名 姓
TEL () () FAX () ()
ご回答頂きまして、誠に有難うございました。
衆議院議員 阿部とも子

◆事業継続への影響をお聞かせ下さい

新型コロナウイルス災害の影響についてハガキでお寄せ頂いたところ、給付金や家賃補助の支給が遅い、仕事が減って将来が見通せない深刻な現状や、消費税の減免など対策の要望や提案が寄せられています。

阿部とも子は一つひとつにお返事を返すべく、事業所を訪問し、お目にかかり、事業継続に向けた解決策を皆様と共に探っていきます。

衆議院議員 あべともこ事務所 〒251-0025 藤沢市鵜沼石上 1-13-13-1 F
TEL 0466-52-2680 FAX 0466-52-2681 E-mail: inochi@shonanfujisawa.com

立憲民主党神奈川県連合 〒231-0012 横浜市中区相生町 4-69-4 F TEL 045-228-8591 FAX 045-228-8592